

そして誰もが…

作詞 J'Soul (浅羽一)

淋しさが瞳から溢れた分だけ 人は他人に優しくなれるというのなら
きっと彼女の足下には見えないだけで
とても大きな水たまりが出来ているのだろう
切なさが口唇に添えられた数が 強くありたいと心に決めた数ならば
今では彼の手の中には沢山の傷と
引き替えに手に入れた力が息づいている
弱さが強さに変わるなら きっと誰もが強くなれるはず
ずっと消せない傷があるなら それごと全て包める強さも
いつかその手に出来るはず



悲しさが両手まで届いた日々だけ 誰かに微笑みを向けられるというのなら
きっと彼女の指先には乾いただけで
今日も冷たい空気が漂っているのだろう
無力さに膝をついた夜の時間が 信じた事を超える自信になるなら
今でも彼は膝に潜む灰色の影と
戦い続け爪痕を刻んでいるのかな
嗚咽が笑顔に変わるなら きっと誰でも愛を抱けるはず
何も出来ない時があっても 悔しさに噛み締めた想いから
負けない勇気が生まれる



…そっと手折られた一輪の花が どこかで少女の涙を拭いた…

● 繰り返し

▲ 繰り返し